

2018年12月 キューバ医療事情

下記情報は当地報道を抄訳したものです。詳しくは原文をご参照下さい。

12月4日【CIBERCUBA】

“カマグエイはマリア・キューリ腫瘍教育病院の63周年を祝う”

第10回カマグエイ腫瘍科学会議2018の期間中にマリア・キューリ腫瘍病院の63周年が祝われた。カマグエイにおいて2018年に気管支、肺癌の減少は認められず、前立腺癌、乳癌、皮膚癌も多い。カマグエイ県で2011年から2017年まで癌による死因が1位であったが、今年上半期は心血管疾患に次いで2位になった。

12月8日【CUBADEBATE】

“キューバ人医師が去りブラジルの農村部の医療は危機的な状態”

11月14日キューバ政府はブラジルの「Mas Medicos」プログラムから8332人の医師を離脱させる決定を伝えた。その1ヶ月後よりブラジルでは医師が去った多くの場所で医療が危機的な状態に陥っている。ブラジルではその空きポストを補充する作業を行っている。サン・パウロのような大都会ではポストには応募があり補充できているが、アマゾナス州のような地域では誰も赴任したがらず、何百というポストが空いている。このような地域住民はブラジル人医師、キューバ人医師誰もいないため医療が受けられず、基礎的な治療を受けるのにこの地域住民は80kmを移動しなくてはならない。また緊急治療を受けるには移動距離は400kmに延長される。アマゾナス州保健長官はこの州の状況は緊急事態であると述べている。

12月11日【Granma】

“バイプレーン血管造影サービスを提供”

ハバナのファン・マニエル・マルケス小児科病院で7月からキューバ初のバイプレーンの血管造影装置が稼働している。このX線装置は同時に2画面の画像を撮影できる。ラテンアメリカでも数少ない機械の1つであり、静脈や動脈疾患の診断や治療には欠かせない。このフィリップス社製の血管造影装置をラテンアメリカで導入している他の2ヶ国はメキシコとチリである。

12月12日【14y medio】

“シエンフエゴスで Dengue 熱とジカウイルス症の患者が増加”

この1週間で Dengue 熱の患者 33 人、ジカウイルス症の患者が 25 人診断され、200 人以上の患者が症状を呈している。シエンフエゴス県で 45 のネットアイシマカの流行地が認められた

が、そのうち 40 ヶ所がシエンフエゴス市であった。シエンフエゴス市が最も影響を受けており、118 人が発熱を認め、流行状況は複雑化しているが、住民は危険性の認識がない。

12 月 18 日【CUBANET】

“キューバの 5 つの県で Dengue 熱が存在”

今年、キューバ中央部や東部において Dengue 熱の致死症例を認めた。

キューバの 5 つの県で Dengue 熱の症例を認めたが、ネッタイシマカが伝播する他のジカウイルス症やチクングニアに関してはコントロールされていると保健大臣は述べた。

シエンフエゴス県、サンクチ・スピリトゥス県では持続的に患者数は増加しているが、ハバナ県、ビジャ・クララ県、オルギン県では Dengue 熱患者は発生しているものの患者数は減少傾向にあり、年末には撲滅される見通し。2018 年にはキューバではコレラは発生しなかった。